Ⅰ　釜石市の概況

１　沿　　革

背後に北上山系の山々がつらなり、東方に陸中海岸線だけが開いているに過ぎない陸の孤島釜石が、はじめて、歴史に登場したのは文治５年（1189年）源頼朝によって奥州藤原氏が滅ぼされてからのことで、この戦いに功績のあった阿曽沼広綱に遠野十二郷が与えられ釜石はその上十六郷の一郷であった。そして徳川幕府、南部時代には大槌代官所の支配下にあった一漁村に過ぎなかった。

享保12年（1727年）南部藩出身の自然科学者阿部友之進によって大橋に鉄鉱石が発見され、さらに安政４年（1857年）大島高任が大橋に高炉を建設し鉄鉱石による初の出銑に成功し、近代製鉄発祥の地となって以来“鉄と魚のまち”として発展してきた。

明治22年（1889年）釜石村と平田村が合併して釜石町となり、昭和12年（1937年）には県下で２番目に市制を施行して釜石市（人口40,388人）となり、その後、昭和30年（1955年）に隣接の四カ村を合併して現在の釜石市となった。

この間、数度にわたる津波災害や太平洋戦争末期に受けた二度の艦砲射撃による壊滅的な被害などを克服し、東北地方有数の重工業都市として、また三陸沿岸漁業の中心基地として栄えた。

人口も昭和38年３月には県下第２位の９万２千人を数えたが、釜石製鐵所の相次ぐ合理化、釜石鉱山の縮小等に伴い、昭和39年（1964年）を境に現在まで減少の一途をたどり、特に40年代以降は年間２千人から４千人規模の流出が続き、地場産業である農林水産業の伸び悩み、商工業の不振という要因も加わって地域経済が長期にわたり停滞し、厳しい経済環境におかれてきた。

こうしたなか、近代製鉄発祥150周年を迎えた平成19年（2007年）に、県内陸部との交通を円滑にする仙人峠道路の開通、そして港湾物流の一翼を担う耐震強化岸壁を備え拡張した公共埠頭が供用開始された。また、平成21年（2009年）には、市民の生命財産を津波の被害から守る世界最大水深を誇る湾口防波堤が完成し、市民の長年の悲願であった３大基盤が整い、災害に強いまちづくり、地域連携の推進及び地域経済の活性化に期待が寄せられた。

ところが、平成23年（2011年）３月11日、午後２時46分、突然震度６弱の大地震が東北地方を襲った。その直後、地震に伴う巨大な津波が発生し、当市を含む風光明媚なリアス式海岸を持つ太平洋沿岸地区は、幼い子どもたちを含む多くの人命を失い、未だ安否確認のできない行方不明者も多数残され、壊滅的な被害を受けた。このような状況においても、被災地域の早期復興と新しい釜石の街づくりに向け、同年、決して撓むことなく、屈することなく、真の復興を果たすべく「釜石市復興まちづくり基本計画（スクラムかまいし復興プラン）」を策定した。

平成27年（2015年）には、橋野鉄鉱山を構成資産に含む「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」がユネスコの世界遺産一覧表に記載認定され、令和元年（2019年）には、東日本大震災からの被災地復興支援プロジェクトとして、国が整備を進めてきた復興支援道路の東北横断自動車道釜石秋田線、復興道路の三陸沿岸道路の市内区間が全線開通し、両路線が接続された。さらに、将来を担う子どもたちに夢と希望と勇気を与えるため、ラグビーワールドカップ2019日本大会岩手・釜石開催を実現させ、様々な支援をいただきながら着実に復興に向かって歩みを続けてきた。

令和３年（2021年）３月に策定した「第六次釜石市総合計画」に掲げる、目指すべき将来像「一人ひとりが学びあい　世界とつながり未来を創るまちかまいし～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～」の実現に向け、令和８年度から令和12年度までを期間とする後期基本計画により、市民、事業者、行政それぞれの役割分担と連携のもとで、一丸となってまちづくりに取り組んでいる。

２　市　　勢

○　面　積　440.09k ㎡
※令和8年4月1日時点

○　人　口　27,745人
（男 13,265人、女 14,480人）

○　世帯数　15,012世帯
※令和8年3月末日現在住民基本台帳



－市章説明－

中央はカマ（釜）、輪郭は海の防波堤ならびに鉄を表わし、みなと釜石と鉄都を表徴するとともに、釜石市の振興発展を意味している。

（昭和12年５月５日制定）

３　位置及び境界

区　　分	東端	西端	南端	北端
緯　　度	39° 21′ 02″	39° 21′ 22″	39° 10′ 04″	39° 24′ 45″
経　　度	141° 59′ 49″	141° 39′ 15″	141° 53′ 04″	141° 41′ 36″
基点地名	箱崎町御箱崎（太平洋）	遠野市との境界 権現山	大船渡市との境界 鍬台山	遠野市との境界 石仏山
距　　離	29,552m（東端～西端間）		31,781m（南端～北端間）	

資料：令和6年版釜石市統計書

４　人口の推移

（単位：人）

	昭和60年	平成7年	平成17年	平成27年	令和2年
年少人口（0～14歳）	12,290	7,298	5,229	3,649	2,949
生産年齢人口（15～64歳）	40,148	31,581	24,347	19,994	16,134
老年人口（65歳以上）	7,569	10,568	13,411	13,044	12,778
不　詳				115	217
総人口	60,007	49,447	42,987	36,802	32,078

資料：国勢調査

５　東日本大震災の被害状況（教育委員会関係）

ア　人的被害

人的被害状況一覧

人 口	39,996 人	H23.2月末住民基本台帳
死亡者数	888 人	R2.1.1 現在 ※身元不明5人を含む
行方不明者数	152 人	R2.1.1 現在
避難者数 （市内避難所）	0 人	H23.8.10 現在
	9,883 人	（最大）※88 箇所 H23.3.17 現在
避難者数 （内陸避難）	0 人	H23.8.10 現在
	633 人	（最大）※29 施設 H23.5.9 現在

※死亡者数については、釜石市で遺体収容されたもの

※避難者数（内陸避難）については、岩手県事業（地震被災者の宿泊施設への一時移動事業）により避難されたもの

各年代別の状況　　**令和 24 年 3 月 29 日現在**

年齢区分	人 口 ①	死亡者数 ②	行方不明者数 ③	被災者数 ④（②+③）
0～14 歳	4,404 人	15 人	3 人	18 人
15～64 歳	21,876 人	277 人	56 人	333 人
65 歳以上	13,716 人	483 人	93 人	576 人
計	39,996 人	775 人	152 人	927 人

※死亡者数は、死亡者数のうち身元不明の遺体、他市町村に住所がある遺体を除いたもの

イ　公共施設等の被害状況

小中幼稚園等	［全壊（３階まで津波貫通、体育館流出)］鵜住居小、唐丹小、釜石東中 ［全壊（流出)］鵜住居幼 ［危険校舎］唐丹中 ［一部損壊］栗林小、甲子小、小佐野小、双葉小、釜石小、白山小、平田小、甲子中、釜石中、大平中、小川幼、第一幼、平田幼、学校給食センター ※スクールバス９台中５台全損
社会教育施設	○公民館施設 ［全壊］鵜住居公民館室浜分館 ［全壊（２階まで浸水)］鵜住居公民館（防災センター） ［流出］釜石公民館浜町分館（市営釜石ビル1階） ［一部損壊］小佐野公民館向定内分館、小佐野公民館野田団地分館、鵜住居公民館仮宿分館、栗橋公民館横内分館 ○集会所施設 ［全壊］只越福祉、根浜、鵜住居上、片岸、大渡、新田神ノ沢 ［床上浸水］水海 ［床下浸水］日向・新川原、浜町（１階消防屯所部分浸水）

	［一部損壊］平田、大畑団地、野田、荒川、小川、向定内西地区、 青ノ木、上平田ニュータウン、南野田 ○その他 ［流出］戦災資料館（市営釜石ビル1階）　［一部損壊］市立図書館
文化施設（指定文化財含む。）	［地階・１階浸水で設備損壊］市民文化会館 ［全壊］唐丹御番所跡・平田御番所跡 ［一部損壊］橋野高炉跡・旧釜石鉱山事務所・女坂石の証文
体育施設	［一部損壊］市民体育館、市営プール、市民交流センター、 平田運動公園、中妻体育館
都市公園・グラウンド	［浸水による構造物被害等の公園］青葉通緑地、大只越、嬉石、 港町東・西、水海、日向 ［浸水被害による利用不能グラウンド］唐丹、水海